

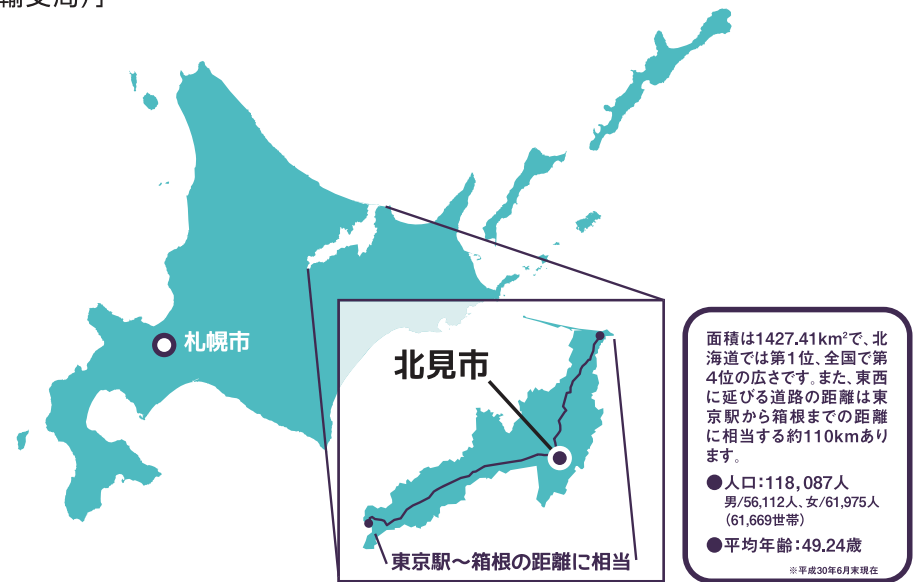
地域イベントと連携した 親子対象のバス体験ブースの設置

【発表者】芝崎 拓[一般社団法人北海道開発技術センター 調査研究部]

【連名者】中 玲奈[北見市企画財政部地域振興課]、佐々木 淳[北海道北見バス株式会社]、高橋 清[北見工業大学 地域未来デザイン工学科]、久原 賢一[北海道運輸局(前年度取組時:北海道運輸局北見運輸支局)]

背景

北見市は北海道で最も広い自治体であり、現在34路線/57系統の路線バスが運行している。市では平成24年3月に北見市地域公共交通計画及びアクションプランを策定し、新たな交通システムの導入や高齢者や子どもを対象としたバスの乗り方教室などを実施している。平成26年度から地域で開催されるイベント会場に、バスを体感できるブースを設置し、若い世代の親子に向けて、バスへの肯定的な意識醸成や路線バスの利用促進を図っている。



プロジェクトの内容

平成29年度は北見市端野町で開催される「第40回たんの太陽まつり」に、体験ブースを設置した。市広報誌に折り込むニュースレターにて、イベント告知を行うとともに、ニュースレター裏面にぬり絵を掲載し、当日会場に持参すると特別なプレゼントがもらえる企画も実施した。体験ブースでは、実際の路線バスを会場に持ち込み、ICカードを使ったバスの乗り方教室や交通〇×クイズ大会、交通スゴロク、ぬり絵、運転手のコスプレ・写真撮影ができる体験プログラムを提供し、来場者(保護者)にはアンケート調査を実施した。



運転手と同じ制服を貸し出す
なりきり写真撮影



北見のまちをマスとした
交通スゴロク(延べ75名が体験)



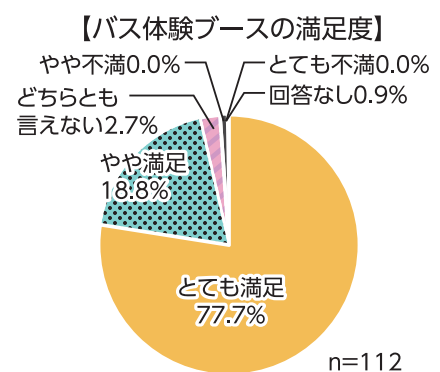
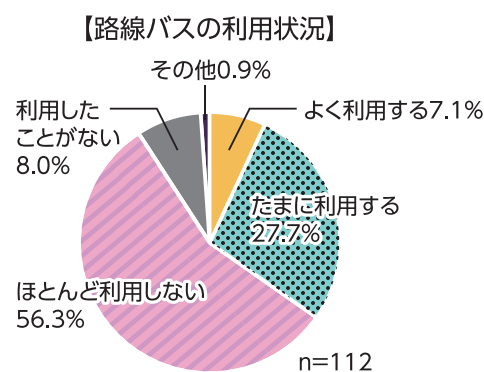
バスICカードの使い方を学ぶ
乗り方教室(延べ80名が体験)



ぬり絵を持参することで
バスグッズをプレゼント

効果

バスの乗り方教室は80名、交通〇×クイズ大会には185名、体験プログラムの延べ参加人数は481名であった。アンケート結果では、女性が約7割、30代が約6割、市内居住者が約7割であった。8割以上の方が「普通免許」を所有し、約6割の方は「路線バスはほぼ利用しない」との回答であった。9割以上の方がバス体験ブースを「満足」と回答し、路線バスの利用意向は「機会があれば利用したい」が約7割、「今後は利用したい」が1割弱であった。



結論

地域イベントと連携したバス体験ブースの設置は、平成26年から平成29年までに3回実施(平成28年度は悪天候のため中止)され、普段はバスに触れる機会のない若い世代の親子に、改めてバスについて考えてもらう機会となっている。未来のバス利用者を根気強く育てるために、体験プログラムの見直し・改善を図りながら継続的に取り組みを推進するとともに、学校の授業など、バスに触れる・学ぶ機会を地域全体で増やすことを目指していく。